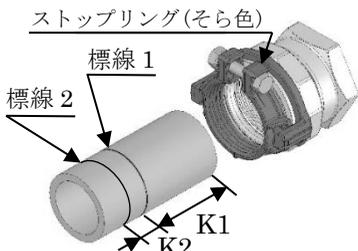


# SKX® 施工手順 (ISO-P 用)

## ①パイプ挿入量記入

パイプ挿入量(K 寸)を測り、**標線を 2 本**記入して下さい。

**分解せずにストップリングとキャップが接した状態で標線 1 まで**挿し込んで下さい。



注1) ・パイプ切断のカエリは取り除いて下さい。

・滑剤の塗布は不要です。

・管止めがある場合は、管止めから 3mm 以上あけて施工して下さい。

## ②キャップ仮締め

本体とキャップを十分手締め(素手もしくはスベリ止め付グローブで締めなくなるまで)した後、マジック等で**マーキング**して下さい。

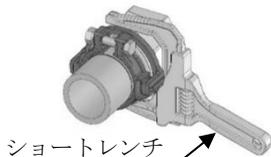
注2) ・十分な手締め(素手)は 8N・m 程度です。

・十分な手締めは管を引っ張っても抜けない程度まで締めて下さい。

・手袋使用の場合は、**スベリ止め付グローブ**を使用して下さい。

## ③キャップ本締め

ショートレンチにて**キャップを標準締付回転数(標準締付トルク)**で締め付けて下さい。

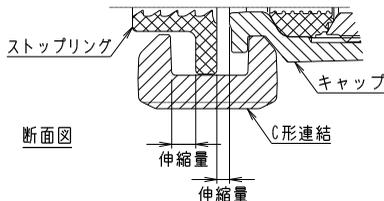
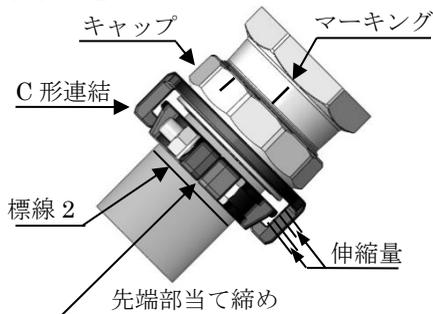


注3) 低温時は通常より1/4回転増し締めして下さい。

## ④ストップリング本締め

C形連結を中心方向に**押えながら、ストップリングを締めやすい位置**にして下さい。

**ストップリングが 2 本の標線の間かつ両端伸縮量を保った状態で、ストップリング先端部を当て**締めして下さい。



注4) 当て締め後さらに**締め付けすぎると破損などの不具合**が生じることがあります。

注5) 管とストップリングが直角になるように締め付けて下さい。

注6) 再施工時は再施工手順書に従って下さい。

## ⑤施工完了・施工手順チェックシートへの記入

**ストップリング端面が 2 本の標線の間**にあることを確認してください。

キャップとストップリングの**締め忘れのないように確認**を行って下さい。

### 《管の取り外し》

・ストップリング締付ボルト・ナットとキャップを緩め、**ストップリング締付部を開放工具で広げる**ことにより、**管と分離可能です。(分解不要)**

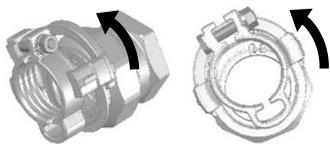
管 呼び径	SR 呼び径 (そら色)	本体・ キャップ 呼び径	K (mm)		キャップ		ストップリング (参考締付トルク N・m)	六角 対辺		
			K1	K2	十分な手締め 後回転数	参考締付トルク N・m				
25	ISO-P25	25	55	+5 -0	5	1/2~1	(20)	当て 締め	(3)	10
30	ISO-P30	32	60		5				(5)	13
40	ISO-P40	D40	65		5				(10)	17
50	ISO-P50	D50	75	5	(16)					
					6/10~1	(30)				

※太字：下限値

## SKXストップリング (SR) 交換手順

### ①C形連結取り外し

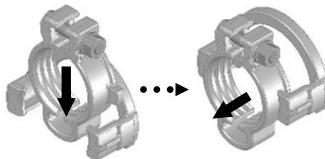
C形連結の一方を支点とし、他方をプライヤー等で回し、取り外す。



### ③ストップリング交換

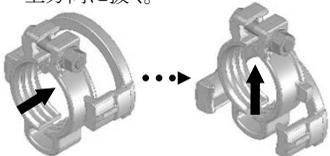
適用管用SRとC形連結を合わせ、SRを下方方向に入れ、C形連結から離す。

※右図のように、ボルト・ナットを上にして、向きが逆にならないように注意する。



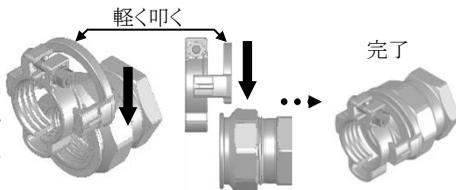
### ②ストップリング取り外し

SRとC形連結を合わせ、SRを上方向に抜く。



### ④C形連結取付

C形連結をキャップの外溝に合わせて、C形連結上部を木槌等で軽く叩いて入れ、完了。



## パイプ取り外し方法

ストップリングの締付ボルト・ナットとキャップを緩め、ストップリング締付部を開放工具・開放ナット（呼び径40・50）で広げることによりパイプとの分離が可能です。（分解不要）

開放工具使用例（呼び径 25・30）



開放ナット使用例（呼び径 40・50）



(株)川西水道機器

TEL 087-805-0001（施工コールセンター）  
FAX 087-877-2801